

学校・家庭・地域で育むメディアとの付き合い方【観点IV】

杵築市立宗近中学校（生徒数225人 学級数9）

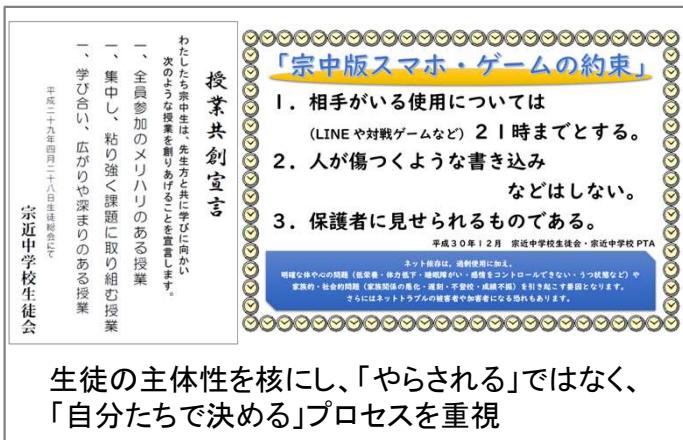
別府教育事務所

現状・課題

- ◇学校・家庭・地域の当事者意識を高める目標の協働達成に向けた取組（ポイント16）
- ◇子どもが自らのデジタルライフを主体的に律する力をどう育むか
 - ・ネット依存や過剰使用による心身・社会的問題のリスクが深刻化
 - ・スマホ・ゲームの長時間利用が、家庭学習時間の低下や健康リスクの増加

学校の教育目標:夢実現～地域を愛し、協働して自ら学び続ける生徒の育成～

生徒の主体性を核にしたルール策定



生徒の主体性を核にし、「やらされる」ではなく、「自分たちで決める」プロセスを重視

協働①:【学校】科学的根拠による「納得感」の醸成

＜科学的根拠(エビデンス)＞

大学教授の講演動画を活用。スマホ使用が脳機能や成績に及ぼす影響を客観的データで提示。

＜共通認識の形成＞

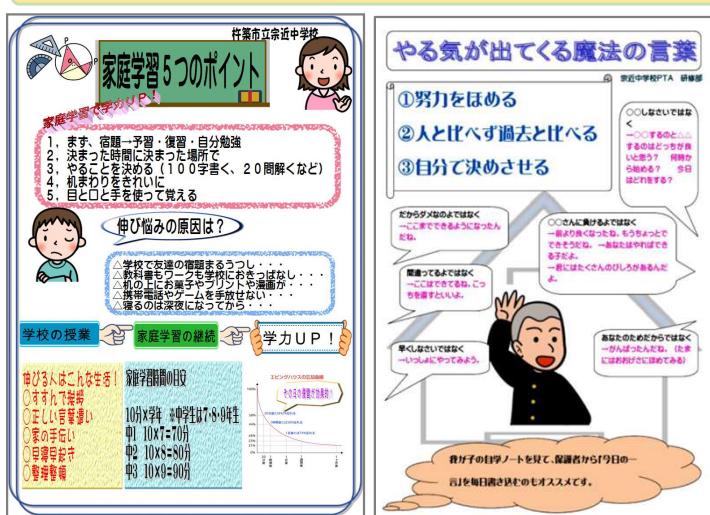
保護者: PTA講演会で動画視聴し、対話の土台となる「知識」を得る。

生徒: 学期に2回、動画視聴し、自分の学習や生活を振り返る。

※感情論ではなく「なぜ」を共有することで、学校・家庭が一体となった体制へ。

学校・家庭が一体となり、明確な役割を分担し、同じ目標に向け連携体制を構築

協働②:【家庭】家庭学習環境の整備



＜家庭学習5つのポイント＞

○家庭学習時間の確保: スマホ利用による学習時間の減少を防ぐため、具体的な行動指針を提示

○物理的にスマホと距離を置き、集中できる環境づくりを推進

＜やる気が出てくる魔法の言葉＞

○ルールを守らせるために叱るのではなく、子どもの自律を促す声かけを推奨

- ・努力をほめる（プロセスを認める）
- ・人と比べず過去と比べる（成長に目を向ける）
- ・自分で決めさせる（決定権を委ねる）

- ・振り返りシートで能動的に自己を客観視して振り返っている生徒が増加（メタ認知）
- ・「スマホルールを意識して生活した」と回答する生徒・保護者の年次増加
- ・生活リズムの乱れを主因とするケースを中心に3年連続不登校生徒の減少
- ・学校と家庭が目標を共有化し、それぞれの役割に応じて取り組む体制が強化

成果

周囲の声より

- 保護者として取り組むことが明確になると同時に、保護者自身も自分を振り返るきっかけになった。
- 「4点セット」に組み込むことにより、学校・家庭・地域一体となった持続可能な取組となっている。
- ◇過去の生徒会の取組(伝統の継承)の更新をどのように進めていくか。生徒の当事者意識を維持させていきたい。

導入を検討する学校へ

- ・今回活用した（大学教授の講演）動画は、文部科学省/mextchannelの公開動画を使用
- ・生徒が視聴する短編動画は、YouTube公開動画のものを作成機関に許可を得て使用